

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式 論述式・記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

I・IIがアジア史中心、III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

第二次世界大戦後からの出題が、昨年度 (II・IVの4割弱) に比べて少なかった。

小論述問題は、昨年度はIIでの出題を含めて6問あったが、今年度は1問のみであった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	朝鮮と中国の 関係の変化	16世紀末から19世紀末にいたる朝鮮と中国の関係について説明する300字論述。問題文の冒頭に、朝鮮が明の滅亡後も清の年号を使っていないエピソードを示しているところから、「小中華」意識について述べるのが求められている。	やや難
II	A 記述	遼寧省の歴史	戦国時代から五胡十六国時代までの遼寧省の歴史をテーマに、同時期の中国史を中心に問う。(3)「趙」は、戦国の七雄の位置を理解していないと解けない問題。	やや易
	B 記述	イスラームの 聖地	イスラームの三大聖地やさまざまな聖地をテーマに、イスラーム史を広く問う問題。(14)「ムハンマド=アリー朝」がやや答えづらいが、解答の多くは標準的な内容。ただし、問い方がストレートではなく、(11)「ファーティマ朝」のように時期や地理的情報から答えを特定する問題が多い。	標準
III	論述	キリスト教世界 の東西分裂	キリスト教世界がローマ=カトリック教会とギリシア正教会とに分裂していく過程について、8世紀に力点をおき説明する300字論述。8世紀以外の事項はコンパクトにまとめよう。	標準
IV	A 記述	黒海とその周 辺地域の歴史	古代ギリシアから19世紀までの黒海とその周辺地域の歴史をテーマに、ヨーロッパの政治史を中心に問う問題。(1)「植民市」が答えづらいほかは、標準的な出題。	標準
	B 記述 論述	共通語のあり 方	共通語をテーマに、古代から現代の欧米史を問う問題。(18)「フランス」は、この時期に拡張し、かつスイスに隣接する国はどこか考える。小論述(14)をはじめ文化史の攻略がポイント。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

300字論述問題は、近年、テーマ性が高い問題が増加しており、問題の要求を正しく捉えて的確に答える必要がある。論述問題の出来が世界史の得点を左右するだけに、普段から時間軸(時期)・空間軸(地域)を意識した学習を心がけよう。例えば、「時間軸」については歴史事象の因果関係の理解に力点をおきながら、「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めること、「空間軸」については歴史地図を活用した学習を心がけることなどが重要であり、これは記述問題対策としても有効である。記述問題については細かい問題が見られることもあるが、全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので、教科書の内容を古代から現代まで「穴」のない学習を心掛けるとよい。また、中国史やイスラーム史、古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので、過去問の研究を進めることは、有効な学習対策となるだろう。